

急激な少子化・人口減少の中 加賀市の小学校のあり方について！

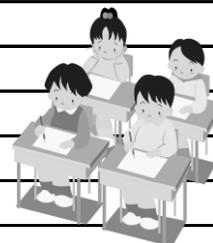
1 児童の減少（加賀市の小学生の人数）

H17	H24
4206人	→ 3588人

実に、700人近くも減少！

○小学校別児童数の推移

	H17	H24	H25年度就学予定者数(新1年生)
山代	806 人	702 人	115 人
作見	500 人	390 人	65 人
錦 城	404 人	351 人	59 人
片山津	355 人	229 人	38 人
錦城東	273 人	265 人	36 人
山中	271 人	227 人	31 人
動橋	267 人	221 人	40 人
河南	178 人	128 人	26 人
分校	146 人	119 人	14 人
庄	143 人	135 人	12 人
金明	123 人	115 人	19 人
橋立	120 人	122 人	19 人
湖北	119 人	149 人	26 人
南郷	94 人	67 人	14 人
勅使	70 人	83 人	10 人
三木	66 人	50 人	3 人
東谷口	65 人	42 人	7 人
菅谷	62 人	35 人	1 人
三谷	59 人	53 人	7 人
緑丘	49 人	50 人	9 人
黒崎	36 人	25 人	1 人



・加賀市の21校の小学校中、6校が全校児童数60名以下の学校であり
＜複式学級＞ と、なっています。

複式学級とは…異なる学年の児童を1つの学級に編成したもの。

児童が著しく少ないなど、特別の事情がある場合において行う。

- ・複式学級が6校もあるのは、県内で加賀市だけ！
- ・上記以外の小学校でも、少子化の進行により各校の児童数は毎年減少！

将来展望としてなすべきこと！

A 「小中一貫教育」への取り組みの実施

- a、一体型(一貫校)——→ 例;H25 橋立小中一貫校
- b、連携型(一貫教育校)

b それぞれの小中学校に配置された教員は、地域内他校も指導する。校区は、それぞれ独立。

B 適正な学校規模・学級規模へ向けて

————→ 学校の統廃合を検討



C 通学地域の弾力化を進める

- ・ 近くに学校がありながら、遠い学校に通学している地域がある。
- ・ 今後の児童数の推移や、通学路の安全性を考慮しながら見直しを進める必要がある。

⇒ 小学校は地域コミュニティの核であり、歴史的に地域との関わりが深い！
だからこそ、今後それぞれの地域に住む住民が、現状を知り、課題を知り
こども達により良い教育環境を提供していけるように、街中みんなの理解
のもと、課題解決にむけて、考えていく必要があります。



室谷 ひろゆき 議会報告

市役所
住 所

加賀市大聖寺南町二41
加賀市山代温泉14の67

72-7965(代)
77-7839

2013年
2月号

(討議資料)